

第2回宇宙産業部会 議事要旨

1. 日時：平成25年4月18日（木） 10：00－12：05

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

（1）委員

松本部会長、中須賀部会長代理、池上委員、佐相委員、下村委員、白地委員、谷所委員、西村委員、仁藤委員、目崎委員、山川委員

（2）事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、前原宇宙戦略室参事官、野村宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、前回欠席の委員の紹介があった。

（1）第1回宇宙産業部会での議論のポイント

事務局から資料2に基づいて説明を行った。

（2）委員からの意見提出

谷所委員、中須賀委員、目崎委員、山川委員からそれぞれ資料3－1、3－2、3－3、3－4について説明した。概要は以下の通り。

○我が国宇宙システムの海外展開の際には、地上システムを含めたパッケージで展開することが重要である。

○世界には多くのコンステレーションがある中で、我が国が進める「ASEAN防災ネットワーク構築構想」に多くの国が参加するインセンティブを与える必要がある。このためには、コンステレーションの時間分解能を上げる必要があり、衛星数を増やすこと（光学だと5機で、1日1回の撮像可能）が有効。マイクロサットの利用もその一案。

○利用拡大には、インフラ整備による継続性の担保、ビジネスモデルの構築、利益を次の投資に回せる資金還元の仕組みが必要。

○「ASEAN防災ネットワーク構築構想」の実現に向けて、インフラ整備が必要であり、衛星は7機以上必要と考える。

○宇宙利用の可能性について、どういったことができるのかということを広くアピールしていくことが重要。

○1メートル以上の分解能、1日1回以上の観測、データ分析能力の向上、迅速な情報提供が利用拡大に向けて重要。

○「ASEAN防災ネットワーク」は防災だけでなく、海洋監視も含め、安全保障に資するものにしていくべきである。

○トップセールスによるASEAN諸国への展開により、日ASEAN協力とともに、情報を米国と共有することなどによって、日米安保体制の強化にもつなげていくことが重要。

説明の後、委員から、以下のような意見があった。

○宇宙システムの海外展開の際には、日本の成功体験をしっかりとアピールしていくことが重要。

(3) 関係府省からのヒアリング

内閣官房、文部科学省、経済産業省、防衛省からそれぞれ資料4-1、4-2、4-3、4-4に基づいてヒアリングを行った。ヒアリングの後、委員から、以下のような意見があった。

○「地球観測」とは、コミュニティとしても学会や大学中心であり、産業利用拡大とはやや異なるのではないか。

○「ASEAN防災ネットワーク構築構想」による、ASEAN諸国や我が国への経済効果の定量的な分析や、相手国の受け皿となる機関への支援が必要。

○政府として、他国の衛星画像を毎年100億円程度購入している。その一部でも国内に還流する仕組みがあれば、国内産業も発展できる。

以 上